（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	まかろんキッズ舞松原教室

公表日　　R8年　2月　　日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援事業のスペースとの関係で適切であるか。	6		指定基準より広いスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		法令に基づき配置している。	パート職員やボランティア等、手厚い支援が行える体制を整えていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じて視覚支援等の実施をしている。	6		バリアフリーの必要性が高い児童がいない為、児童の特性に応じて視覚支援等の実施をしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごける環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっている。	6		SSに則り職場環境の改善・維持を実施している。	定期的な片付け、環境調整の実施。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		休園不良やクールダウンを職員の見守りの元、相談室で対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		朝・昼・夕のミーティングや毎月のカンファレンスを実施している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		ミーティングにて	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日のミーティングにて意見交換を実施している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		必要に応じて実施予定。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		社内・外の研修を実施している。	職員の資格取得の機会を増やしていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムの作成、公表を実施している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		アセスメンツールを使用し、カンファレンスに基づいて計画書を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		担当者会議・モニタリングでの情報を共有し、事例検討を実施する歩で、職員間での共通理解を行って入る。	特性や障害に関する理解等のスキルアップの機会を増やしていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		作成した計画書を共有している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを通じインフォーマルなアセスメントを使用する等による確認しているか。	6		SS面談シートを作成し、支援記録や専門ツールを用いたアセスメントの実施。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインの確認を行い、支援計画書を作成している。	新ガイドラインの理解をより深めるための研修や体制が必要。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		チームで立案を行い、専門職が中心となって作成している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		毎月話し合いを行い、季節や月を意識したイベントをプログラムに取り入れ実施している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援を実施しているか。	6		必要に応じて現場職員や専門職員の意見を求め作成し、支援を実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼・昼礼を実施し、情報共有を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		終礼にて情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々の記録を徹底して行い、事例検討の参考資料としている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的に個別支援計画書の更新を行っている。	環境や学年の変化に合わせ、モニタリングの日程を調整していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6		個別支援計画書に組み入れ支援している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		子ども連同士で相談・決定をする場を提供している。選択肢の提示を行い、自己決定を促している。	選択の幅を広げる支援が必要。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者を中心に参職員も参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		学校や相談支援専門員を含めた担当者会議を実施している。	学校や関係機関と連携をとる機会を増やしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		日々の送迎時を中心に可能な限り情報共有を実施している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		6		今後、情報共有の機会を設けていけるような関係作りが必要。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を関係する等しているか。		6		卒業したお子さまはまだいないが、卒業生が出た際には情報を共有していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。		6	必要に応じて実施予定。	必要に応じて実施予定。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		外出活動等の際に地域の子どもと一緒に遊ぶ機会を設けている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6	必要に応じて参加予定。	必要に応じて実施予定。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時に申し送りを行っている。連絡帳を活用している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6		今後実施予定。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		定期的にモニタリングを実施している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	6		説明を行い、保護者からサインを頂いている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		必要に応じて電話対応や送迎時に相談を受け、アドバイズを実施している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		6	今後実施予定。	保護者のニーズを確認した上で今後実施予定。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		マニュアルにて整備し、対応している。	マニュアルに加え研修の実施も検討していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		SNSの活用とコラムの作成。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		同意書の作成や研修を実施している。	個人情報を取り扱う際は、今後もダブルチェックを行い確認をしていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		視覚支援や文章などで支援を実施したり、個別の声掛けを行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	個人情報保護の観点から実施していない。	個人情報に配慮した上で、交流する機会を作っていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		定期的な見直しと改善を図り実施している。	今後も定期的に見直しや改善を図り、実施していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的な見直しと改善を図り実施している。	今後も定期的に見直しや改善を図り、実施していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時の確認や定期的な情報の見直しの実施をしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		6	医師の指示書に基づく対応はないものの、保護者と密に連携をとり対応方法を決め対応している。	医師の指示書がある場合の対応について、必要に応じてマニュアルの更新等検討していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		研修や訓練を定期的に実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	6		HPに公表している。	必要に応じて再度周知を図っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		報告書を作成し共有する歩で、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止委員会を設け、研修やアンケート調査を定期的に実施している。	
	54	どのような場合にやめを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明して解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		必要性のある児童については、計画書に記載し同意を得ている。	児童それぞれに対応した具体的な方法を周知し、賢い体制を整えていく。